



9月

出東地区 行事予定



| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|--------------------|----------------------|-------------------------------|--------------------|---------------------------------------|---|----------------------|
| | | | 1 ●ふれあいサロン (1班) | 2 燃えるゴミ 埋立ごみ 飲料用空缶 | 3 リサイクルステーション | 4 ●人権自治会研修 5振興区 |
| 5 ●人権自治会研修 6振興区 | 6 燃えるゴミ | 7 あいさつ運動 | 8 | 9 燃えるゴミ ペットボトル | 10 ●スマホ教室 | 11 ●防災訓練 |
| 12 | 13 燃えるゴミ | 14 ●人権自治会研修 3振興区 あいさつ運動 | 15 ●コミセン喫茶 | 16 ●視察研修 豆腐作り体験 | 17 リサイクルステーション | 18 リサイクルステーション |
| 19 敬老の日 | 20 ★文書配布 燃えるゴミ | 21 あいさつ運動 | 22 | 23 燃えるゴミ 秋分の日 | 24 ●スマホ教室 | 25 ●出東地区民運動会 (中止) |
| 26 | 27 燃えるゴミ | 28 ●ふれあいサロン (2班) あいさつ運動 | 29 ●環境視察研修 | 30 ●人権自治会研修 13振興区 燃えるゴミ 空きびん | ◆リサイクルステーションは、古新聞・チラシ・本・雑誌・アルミ缶・廃油・段ボール・古着を回収します。(オープン 8時30分~17時) | |



出東カーリングクラブ

気軽に競技に参加できるのが魅力

カーリング競技は、子どもから高齢の方まで年齢・性別、体力に関係なく誰でもできる軽スポーツです。

直径90cmのゾーンに、11mの距離から中心にジェットローラを集め、相手チームのプレイヤーと交互に走行しぶつけ合い、得点を競います。ゾーンの中のローラを外に出したり、投げるコースにローラを置いたり、相手チームが妨害もします。思うようにならないところも魅力のひとつ。偶然性もありますがそこは競技、頭も使います。味方チームを有利にする作戦を考え、勝利するとチームは大盛り上がり。会場はいつも笑顔と歓声につつまれます。

50代から80代までの男女半々でメンバーは29人。毎月第2・4木曜日の午後、コミセンを会場に練習しています。年会費は500円。皆さんも一緒に出東カーリングクラブで楽しんでみませんか。



待ってま〜す!



The Voice

～皆さまからの声～

▶ 斐川平野の秋の風物詩「ハデバ」を見なくなって50年以上の月日が経ちました。米作りを支えてきた「ハデバ」は忘れ去られ、「ハデ木小屋」の中で静かに眠っています。近年、消費電力の増加や、自然環境に配慮した多種多様な発電がおこなわれています。木材を燃料チップとするバイオマス発電があります。この忘れ去られた「ハデ木」をバイオマス発電の燃料チップにすることは出来ないでしょうか。(中洲・60代男性)

▶ コロナ禍の中、文化祭も縮小を余儀なくされています。コロナが終息したら文化祭に合わせて小学校の周りをみんなで仮装して行進する「出東ハロウィン」企画があったら楽しいと思います。(三分市・60代男性)

●皆さんの声を募集しています!!



ご寄付お礼

皆様からお寄せいただきましたお志は、出東地区の福祉事業に活用させていただいております。

- 香典返し 金一封 竹下 幸弘 様(欠戸橋南自治会)
- 香典返し 金一封 福間 明彦 様(北島自治会)
- 香典返し 金一封 飯塚 勇 様(共進自治会)

ご厚志誠にありがとうございました。

2022年8月20日発行



アンテナ 出東

発行/出東コミュニティセンター企画広報部 お問い合わせ/TEL 0853-62-5033 FAX 0853-62-5039

9月号
2022.8

●世帯数1,245戸
●人口3,905人
男性/1,917人 女性/1,988人
令和4年6月30日現在

あの時の記憶

丁度、教育実習で実家(農家)に帰省していた時です。宍道湖の堤防が切れたとの情報でそちら側に目をやると、キラキラと輝きながら波打ちこちらに向かって水が押し寄せてきた光景、今でも忘れられません。(三分市大沢60代女性)

五右衛門川堤防の決壊により沿岸部より水が逆流し、みるみるうちに辺りが増水。当時は簡易水道で使用出来なくなり、にわか作りのいかにで町水道のお宅から飲料水を運びました。始めたばかりのタバコ栽培も全滅しました。(坂田前島80代男性)

被災した多くの同級生は水に浸かって教科書がなくなってしまったことから、夏休みが明けた2学期、当分の間、教科書を二人一組で使っていました。また、担任の先生から友達のために鉛筆や未使用のノートなど提供のお願いがありました。(欠戸橋南60代男性)

家の周りは胸の高さまで水没し2階での避難生活でしたが、4Hクラブ(農業青年クラブ)や青年団の方などには、炊き出しや片付けなど大変お世話になりました。当時畜産が盛んに行われていたため、近所の皆と協力し不眠不休で逃げ遅れた牛や豚を船で救助したことを鮮明に覚えています。(瑞穂70代男性)

上司から「帰宅困難の恐れから早く帰宅を」との指示で松江の職場を早退。荘原駅から家路を急ぎましたが、途中道路が浸水しており歩いて帰宅する羽目に。家に着くと「堤防の土壌積みによる」という事で夜中まで五右衛門川、十四間川堤防で作業をしました。しかし水の勢いには抗えず決壊、水は軒下に達し、中学校での避難生活の傍ら舟で浸水した家の片付けに毎日通いました。二度としたくない経験です。(松江分70代男性)

昨年7月7日、周囲の水田や道路は冠水し下流部では湖の中に住宅が点在する状況。ふっと、昭和47年の豪雨災害時の記憶が過ぎりました。当時学生だった私は、旧斐川東中学校の体育館で避難生活を送りました。このような被災経験を、これからの子どもたちにはさせたくありません。(松江分60代男性)

47水害あれから50年

―甚大な被害が発生した出東地区―

昭和47(1972)年7月、島根県を襲った集中豪雨は各地で甚大な被害をもたらしました。宍道湖が溢れ、河川は決壊。ここ出東地区でも宍道湖に近い広い地域が浸水し、五右衛門川の堤も決壊しました。水害の記憶が風化しないよう今に受け継ぐことが大切です。見慣れた景色や、田畑、家屋など貴重な財産が奪われないよう、地域や家庭などで日ごろから高い防災意識を持つことが必要です。空振りでもいい。危険を感じたらいち早く安全な場所に避難しましょう。今一度、ハザードマップの確認と防災用具一式の備えと点検を。あれから50年、昭和47年出東を襲った氾濫、惨状を振り返る。



▲家屋の1階部分まで浸水し、船で避難した人も多かった(写真 上・中: 出雲市提供)



▲急ごしらえの筏で生活物資を運んだ(写真: 坂田前島公民館提供)

人権

コラム

人権について考えてみよう (Vol.2)

不安を差別に
つなげちゃいけない。



法務省: 新型コロナウイルス感染症関連情報

検索

法務省・全国人権擁護委員連合会が作成したチラシの中に、(左図)の一文がありました。これは、コロナ差別だけでなく、すべての人権問題に当てはまることではないかと思えます。

日常生活の中で、誰かに言われた一言で、ものすごく嫌な気持ちになったり、傷ついた経験がある人は多いと思います。立場を変えると、自分が発した言葉によって無意識のうちに誰かを差別したり、傷つけたりしたことがあるかもしれません。

日頃、自分が発している言葉について、ちょっとだけ立ち止まって考えてみることは、人権について考える第一歩になるのではないのでしょうか。

5月28日 土 **大黒山ファミリー登山** 出東地区社会福祉協議会



親子のふれあいと地域の人たちとの交流を目的に、小学生以下の親子9組26人と、定期的に社協活動でウォーキングを楽しむ大人12人の38人が大黒山の頂上を目指し登山、爽やかな汗を流しました。

みはらし本陣から登った登山道の数か所には、事前に社協のスタッフが植物の名前を記した看板を設置。その前では樹木の説明を受けながら、それぞれ自分のペースで深緑の登山を楽しんでいました。晴天にも恵まれ荘原や出東地区が一望できる頂上に着くと、全員に配られたおにぎりを家族で美味しく食べていました。

5月29日 日 **子育てをもっと楽しむために おさがりマルシェを初開催!** 出東mama塾

サイズが合わなくなったり卒業して不要になった小・中学校体操着などを次の方にバトンタッチするリユース活動が出東mama塾主催で行われました。当日は、急遽、地域の方からカブトムシの幼虫プレゼントなどのエールもあり、小学生、中学生の親子連れ30人が来場し賑わいました。

参加した女性は、「子どもたちには後輩に譲り渡していくということを通じ、物を大事に使う心や気持ちをもってもらいたい。そんなステキなおさがりの流れがもっともっと広がっていくといい」と話していました。今年の文化祭でも出店の予定です。



6月30日 木 **専門部視察研修** 出東コミュニティセンター事業委員会

高齢者福祉部と環境部の部員さんたちを中心に、安来市方面の視察研修が行われました。初めに訪れた和鋼博物館では、たたら製鉄のドキュメント映像を観賞。その後、同館学芸員の竹田さんの解説を受けながら、奥出雲のたたら製鉄が栄えた背景や安来港の関わり、玉鋼から生まれた実際の日本刀を持つ体験などを通して、「たたら」について知識を深めました。

午後は広瀬町の安来市歴史資料館を訪れ、尼子時代の城下町の様子を表したジオラマを前に、平原館長から山山富田城がいかに堅牢な山城であったか、どのように領国支配の拠点か松江に移っていったのかなど分かりやすく解説を受け、中世・戦国のロマンに思いを馳せていました。

この視察研修で得られた内容は、今後の専門部活動に反映される予定となっています。



6月11日 土 **笹巻作りに挑戦** 自主企画事業/高齢者福祉部



毎年恒例の笹巻作り、例年の子どもの中心の笹巻体験から今年は大人を含めた地区全体に案内し、17人の参加がありました。

はじめに高齢者福祉部の古川勝広さんから、団子の固さ加減やしゃみせん巻の巻き方を教わり、さっそく参加者はグループごとに団子を練って丸めることからスタート。硬くなったり柔らかくなったりと苦戦しながらも団子ができると、次は笹巻に挑戦。教わった時は分かったつもりでも、いざ自分で巻いてみると簡単にはいかない様子で、スタッフの方たちからアドバイスを受けながら、最後まで頑張って作っていました。

今年もコロナ禍につき、作った笹巻は持ち帰りとなりましたが、参加者はみな笑顔で楽しんでいました。

6月12日 日 **出雲弁よもやま話** 自主企画事業/企画広報部

発音やアクセント、豊富な語彙数、柔らかな語り口といった出雲弁の特徴を、分かりやすくユーモラスに語っていただき、藤岡大拙先生による「出雲弁よもやま話」の講演会が行われました。

会場のコミセン集會室には、郷土の歴史ファンや出雲弁をこよなく愛する約40人が訪れ、藤岡先生のユーモアあふれる語り、ときおり会場は笑いに包まれる中、みな出雲弁のすばらしさについて熱心に聞き入っていました。

参加した60代男性は「地元の身近な話題もありとても楽しかった。是非とも継続してこのような講演会を行ってほしい」と満足そうに話していました。



7月12日 火 **お口の中の健康教室** 出東地区健康づくりの会

出東地区自治協会の組織、出東地区健康づくりの会が、県立中央病院の尾原清司歯科口腔外科部長を講師に招き「お口の中の健康教室」が開催されました。

歯周病が血糖値に影響を与えることや、動脈硬化や心内膜炎を引き起こす可能性があること、また咀嚼(そしゃく)力など口の衰えが全身のフレイルにつながることなどの話を聞いた後、表情筋と舌の筋肉を鍛える「あいうべ体操」を実践。歯科口腔衛生がいかに大切かを熱心に学んでいました。

第2部では、伊藤八恵先生による笑いヨガを体験。アロハ笑いや隠岐の海笑いといったユーモラスな笑いの体操を学び、さっそく皆でスタート。はじめのうちは恥ずかしながらも、伊藤先生のリードでだんだん大きな笑いに変っていました。参加者のひとは「気分が晴れ晴れと明るくなった」と楽しんでいました。



地域のために頑張ってます!!
出東地区の方々の健康づくりのお手伝い
「健康づくり推進員」



大場久子さん 福間良子さん 山根克美さん

「出雲市健康づくり推進員」は、出東地区では私たち3名が市から委嘱されています。地区の特性を活かし地域ぐるみで行う健康づくりの推進を行うことを主な目的とし、地区での健康づくり活動が広まるようにコミュニティセンターや関係団体などと連携した取り組みを行っています。

具体的な役割としては次の3つが挙げられます。

1. 自分の健康づくりと身近な周囲への働きかけ
2. 地区の方々の健康づくり活動を支援する
3. 市が実施する保健事業の参加、協力

さらに私たち推進員3名で出東ふれあいサロンの場において、利用者の方々に軽い運動や簡単な脳トレも行っていきます。

コロナ禍で閉塞的な気分になっている方も多いと思います。高齢者の方が内にもっとりして孤独にならないようお力になれればと思います。

皆さん、いろんなことに挑戦して前を向いて明るく過ごしましょう。

~かつては高瀬山まで続いていた参道~
『沖洲天満宮』 ●斐川町沖洲649番地

出東歴史散歩 Vol.2



主祭神は、相撲の神様で今では運動の神様として新・旧国立競技場にそのパネルが掲示されている野見宿祢命と学問や五穀豊穡の神様菅原道真公。

その昔、洪水により今の直江の結の里(跡地が現存)から祠が流れ着いたのが今の天満宮の始まりとされる。沖洲天満宮は参道が長いのが特徴で、今でこそ空港道路から宮までの400メートルほどだが、江戸時代の新川開削以前は高瀬山まで続き、鳥居も今のものと合わせ宮の南方に3基あったと伝わる。

10月の例大祭には、子供神輿、浦安の舞の奉納、土師天神会による神事花や獅子舞、芋煮の振る舞いなどで賑わいをみせる。

沖洲天満宮では、男の子の成長を願って贈られた沖洲天神人形が大正時代まで造られていたという。木村泰夫著「天神さん人形」(日貿出版社)の中で「数ある天神人形の中で群を抜いて美しく、高い品格を誇るのが出雲の白天神。その中で沖洲天神が最も古く最も美しい...特に沖洲黒天神人形は品格と美しさにおいて全国の天神人形中屈指といわれてよい」と紹介されている。

また境内にある惣荒神の注連縄の「しめの子」(注連縄に垂れている藁の紐)を片手で手にして結び、「願いが結ばれる」とロマンあふれる言い伝えもあり、お参りの際には願いが叶うよう結んでみてはいかがでしょうか。

沖洲天満宮では、現在50年に一度の開帳祭(ご神体を直接拝める祭り)が催行され、次回は2050年の予定となっている。



足立真司 宮司

おじゃまします
出東のお仕事拝見! Vol.2

台雲酒造合同会社



代表社員の陳章仁さん

付近を通ると、青い屋根に書かれたTAIWANの文字が鮮やかに目に飛び込む。代表の台湾出身の陳章仁さん(41)は、2008年に島根大に入学後、日本酒の魅力に感動し、酒造りを目指す。その後、一時東京でグラフィックデザイナーとして活躍するも酒造りの夢が捨てきれず、旭酒造(山口県岩国市)や李白酒造(松江市)などで蔵人として修業。18年に日本と台湾に縁のある食用米「台中65号」を栽培、品種改良を重ねその米で作った日本酒を台湾などに輸出してきた。

その後、国税庁が輸出拡大のため20年に新設した輸出用製造に特化した免許制度を知り、日本国内では半世紀ぶりという清酒酒造免許をこのほど取得。中洲の空き事務所を借り、台雲酒造合同会社を設立、醸造を始めた。台湾の仲間と2人で社氏役もこなす。

日本酒の人気は台湾をはじめ海外でうなぎ上り。商品の純米吟醸の仕込水は北山の地下水を使用し、少し甘めだがフルーティーな味という。フ

ランス、スペインなどの品評会で度々表彰されるなどその出来は折り紙つき。輸出に限られていたので、日本国内の販売や試飲は出来ないが、「機会があれば地元の方々と交流したい。出来れば祖国台湾と日本の架け橋となれたら」と意気込む。

INFORMATION 台雲酒造合同会社 ●斐川町沖洲1170番地 ●創業令和3年秋 ●社員2名